

(写真：1/26市内の小・中・高校生のスキー授業で賑わうノーザンアークスキー場)

# たんの地域振興だより



発行/編集：端野総合支所 総務課 地域振興係 (TEL56-2113)

厳冬の中で・・・端野」

厳冬は「メ豊作」

冬は冬らしく寒いと、夏もよい天候になり、豊作になるといふことわざ。

冬の寒さで病害虫が死滅してしまうので、夏の病害虫被害も少なくなるということですが、寒さも我々の生活には必要だということです。

長い歴史の中、日本の四季により私たちの文化や生活が根づいています。寒さは身に堪えますが、冬は冬らしく寒く、雪が降ることが何より望ましいことです。

1月には九州でも雪が積もり、テレビのニュースでは子どもたちが、雪だるまをつくれたり、雪合戦をしたり、大人たちをよそ目に雪を楽しんでいる姿が映ります。

北国の私たちも九州の子どもたちに負けず、雪と寒さを楽しむ「遊び心」を呼び起こし、スキーやスケート、雪だるまづくりを楽しんではいかがでしょうか。

端野自治区の全世帯の玄関横に「雪だるま」があったら、話題になるのでは・・・雪だるまのまち」・・・端野 笑。

## ・・・たんの少年少女スポーツ教室・・・

1月16日(土)、17日(日)の2日間、端野小学校1～3年生を対象にした「たんの少年少女スポーツ教室」のスキー教室がノーザンアークスキー場で行われました。

両日とも澄み切った青空のスキー日和！ 1年生11人、2年生9人、3年生2人の計22人が参加しました。

端野町スキー連盟の指導員さんたちの熱心な指導のもと、子どもたちはメキメキと上達し、最初滑れなかった子も2日目には、ペアリフトに乗って降りてこられるまでになりました。子どもの上達って早いですね。

参加した子どもたち、教えてくださった指導員の皆さん、お疲れ様でした。



晴天の中でのスキー教室の様子



・・・【 端野小学校 移り変わり 】・・・



この度の端野小学校の新校舎完成に伴い、端野地域の「小学校の移り変わり」をたどってみました。

明治30年（1897）屯田兵の入地とともに尋常小学校の建設計画がたてられましたが、兵屋が完成していなかったり、教練や開墾に追われていたため建設に着手できず、そのため二号端野駅通前にあった真宗大谷派東本願寺端野説教所（現在の無量寿寺の前身）を仮校舎として「寺子屋式」の授業をはじめました。

これが端野地域における「学校教育のはじまり」であります。

明治31年5月端野尋常小学校校舎の建設に着手し、7月末に木造平屋建100坪の校舎が完成しました。建設場所は現在の屯田の杜公園内の祖霊社付近で、祖霊社前の大カラ松は尋常小学校の中央玄関前に植えられたものです。児童数は88人で、開校式は11月6日に行われました。（現在も端野小開校記念日になっています）

